



ふわふわ、ほいっぷ!



Otemoto.s



スコットはクリームが大好きな男の子です。

朝食のパンには必ずクリームをちよつとつけますし、  
夜寝る前に飲むホットミルクにも、  
ちよつとだけクリームをのつけます。

ちよつとだけなのは、沢山食べると  
お母さんにおこられてしまうからでした。

スコットはとってもクリームが好きなので、  
いつかふわふわのホイップされたクリームに  
なりたいて思っていました。





ある日、お母さんとお父さんが旅行に出かけて  
おばあちゃんが泊まりにきたので、  
ここぞとばかりに寝る前のミルクに  
たっぷりクリームをのっけました。

『たっぷりふわふわ！幸せだ！  
僕がクリームになったら毎日沢山の  
クリームが食べれるのになあ。』

雪が降る、寒い寒い夜でした。  
その晩、スコットは奇妙な夢を見ました。





気づくと、すべてがホイップクリームでした。

寝ていたベッドのふとんもふわふわ、

ベッドのトーマもふわふわ、

イスやテーブル、すべてがふわふわの

ホイップクリームなのです。







トーヤのしっぽのクリームをすくって  
なめてみると、甘い甘い本当のクリームでした。

『わあ！全部全部ホイップクリームだ！』

スコットは喜んで外に出てみました。







外は雪が降っています。

いえ、正確にいうとショガーパウダーの雪でした。

空から降るショガーパウダーの雪が

街にあふれるすべてのものを

甘くしているのです。



スコットは路地にとめてある

自転車をなめました。

街路樹の葉をなめました。

スコットはびっくりしました。

すべてが、甘い甘いホイップクリームなのです。





よく見ると道行く人もなんだか変です。  
みんな髪の毛や体がクリームになっているのです！

僕もクリームになれないかな？

スコットは立ち止まると  
『甘い甘い、ホイップクリームになれ！』  
と祈りました。





しばらく祈って、目をあけてみると  
スコットの髪の毛もホイップクリームになっていました。

『わあ！やった！僕もクリームになったぞ！』

スコットは念願の夢が叶って大喜びです。







スコットはクリームになったら自分のクリームを  
お菓子につけてたくさん食べたいと思っていました。

すると目の前に大きな大きなビスケットや  
チョコレート、フルーツがあらわれました。

『やった！これで沢山クリームのお菓子が食べれるぞ！』





いつもいつも、ちょっとだけでしたが  
クリームになったスコットは  
たっぷりたっぷりクリームをつけます。

イチゴにクリームをつけて、パクっ。  
クッキーにクリームをはさんで、パクっ。  
チョコレートにクリームをつけて、パクっ！

口の中が甘くてふわふわ！  
スコットは飛び跳ねて喜びました。





スコットが飛び跳ねていると  
急にあたりが暗くなりました。

なんだ？と思って振り返ると  
そこには弟のディジーがいました。

ただ、いつもと違うのは、小さなディジーが  
とてつもなく大きいということでした。







『ディジーなんでそんなに  
おつきなっちゃったの？  
僕だよ！おにいちゃんだよ！』

ディジーはお腹がすいているようで、  
目の前にいたホイップクリームの  
スコットをひょいっと  
つかんでそのまま  
食べてしまいました！



わあ————!!!







はっと起きるとベッドの横に  
いつもの小さなディジーがいました。  
スコットのほっぺについたクリームを  
なめようとしていました。

『わっ！ディジー僕はおいしくないよ！』  
スコットはびっくりして声をあげました。

おばあちゃんがキッチンから顔を出し  
『あらあら、ようやく起きたのかい？  
朝ご飯を食べようかね。』  
といました。





今日の朝食はクリームサンドです。  
スコットはむしゃりと食べながらいました。

『おばあちゃん、クリームは食べるからおいしいんだね。』

おばあちゃんは、そうだねえと笑いました。





その日の夜、スコットは思いました。

『食べられちゃうから、クリームにはなれないけれど、  
ふわふわのほいっぷくりーむに囲まれて暮らしたいなあ。』

スコットはいつものように、ちょっとだけの  
クリームがのったホットミルクを飲んで眠りにつきました。

外はまた雪が降っていました。



おしまい。

